2012年2月1日

2012年度学生研究発表大会の総括

学生研究発表大会教員世話役
経済学部教授　望月和彦

2005年度から再開された学生研究発表大会は，年々参加者が増加し，学長の冒頭の辞にもあるように，計58のグループ・個人が参加し，総数で170名近くとなりました。前年に比べて参加グループ・個人は15増えています。再開当初は1グループの発表から始まったことを考えると隔世の感があります。

この背景には，プレゼンテーションのためのハード・ソフトの充実があります。今や学生諸君もパワーポイントを駆使してプレゼンテーションをするのが当たり前の時代となりました。そしてプレゼンテーションの水準も年々向上しているように思えます。

今年度は優秀賞が3，佳作が12，準佳作が13となりました。これを前年度と比べると優秀賞が2，佳作が4，準佳作が3それぞれ増加しています。同じ基準で評価しているとはいえませんが，参加者数の増加と同時に質もまた上昇したと言えるでしょう。

発表数の増加により，前年度と同じ4つの会場を用意しましたが，会場によっては終了時刻が午後5時を過ぎるという結果になりました。今年度は各会場にキッチンタイマーを配布して，報告者には時間厳守をお願いし，おおむね時間は守られていたと思いますが，会場によっては午後1時の開始から4時間以上ぶっ通しで報告が行われ，報告者及びコメンテーターまた会場の運営に当たった学生・教員の皆様には多大の負担をおかけすることになり，申し訳なく思っています。

また発表数が多数に上ったために，報告時間は1報告につき，10分という制約を設けざるを得ませんでした。せっかく綿密に調査し，報告内容もたくさんあるのに，10分で報告するのは無理難題であるとは承知していますが，

管理上，これ以上教室を増やすことが困難なため，あえて無理をお願いしました。

このように多数のそして質のよい研究発表大会になったのも，日頃ゼミを指導されている教員の努力のたまものであると思います。またこの研究発表大会には 21 名ものコメンテーターの先生のご協力をいただきました。ここで研究発表大会にご尽力頂きましたすべての教職員・学生のみなさまに厚く御礼申し上げます。

これから大学はその教育に対してどのような成果を上げたのかが厳密に問われていくと思われます。これに関して，懸賞論文や研究発表大会は，大学での教育の目に見える成果であり，私たちはこの成果を積極的に社会にアピールしていく必要があると思います。そのためにもこれらの活動をより一層盛んなものにしていかねばなりません。これらの活動に対する皆様のより一層のご協力を心よりお願いいたします。